

## 生き方 その三 (日本仏教再生論)

今 時代は葬儀業界も仏教界も追い込まれて背水の陣にあることは確かかと思えます。今後は葬式仏教 先祖教は衰退していきますので霊園事業も成り立たなくなります。取り急ぎ幅広く手がけているところが生き残っていくことになるでしょう。葬儀式とか法要はなくなっていく傾向にあります。冠婚葬祭業は没落するかもしれません。お坊さんはオプションになり先祖教の司祭者として役割を終えていきます。そして信者を持つ僧侶のみが残ります。葬儀社は遺体搬送業に特化されていくことでしょう。寺院は廃墟化するところも続出します。更地にして事業転換にもなるでしょう。お坊さんは転職か難民か。あとは葬祭業 兼 拝み屋 兼 納骨係になります。廃仏毀釈以来の大騒動 大移動 大破綻となっていくことも考えられます。一部の信者を持つ僧侶以外は廃業廃寺となり宗門が築いてきたヒエラルキーの崩壊をまざまざと見せつけられることとなります。

この一月の三ヶ日 埼玉県北部と群馬県の一部地域の寺院墓地 霊園を見学視察しましたがほぼ全滅に向かっている印象は拭えません。お墓参りはそれなりにしているかもしれませんが法事をしている形跡はほとんどありません。建物はどこも老朽化してリニューアルできているところはあまりありません。葬儀業界よりも私は霊園業界の方が深刻化していると見ています。そして寺院社会しかりです。そうなるとどこも座して死を待つことにはなってしまいます。生き残り策はどうしても遺体搬送業務から納骨供養まで一貫体制を整えていく以外に妙案は浮かびません。葬式仏教は廃れ先祖供養は忘れられていきます。寺院の役割はなくなっていく一方です。檀家制度の崩壊 葬式仏教の衰退 先祖供養の放任 という時代を迎えております。

そこで日本仏教が立ち直り起死回生の再生をしていく提案をさせていただきます。それは僧侶たちがお高く染まっていないで泥臭く何にでも挑戦することです。そしてひたむきに真面目に働くことです。そもそもお布施とは真面目に修行する僧侶のために一般在家の人が無償で提供する浄財です。布施はその名の通り布を施すことです。袈裟や仏具代を上納することです。そして一般在家の人たちが出来ない修行をお坊さんたちが代わってすることです。そこで濁世（じょくせ）にまみれた金銭は寺院や僧侶という浄化槽でもって濾過されやがてお布施は浄財となるのです。それが喜捨です。「布施功德」です。その布施 生きた浄財を仏法興隆 寺院繁栄のために あるいは世のため人のために使われて始めて在家の人の布施は功德になります。出資者に目に見えないかたちで還元されていきます。ですから私たちは一般在家の人たちにおもねることはいけません。堂々として威厳をもって行に邁進していればよいのです。大事なことは質素儉約の生活をするということです。早朝よりお勤めをすることです。猛勉強猛修行さえしていれば何も心配することはありません。禁煙禁酒をすること。ゴルフやギャンブルや浮気をしないこと。高級車に乗らないことです。当たり前のことさえしていればよいのです。人生とは正直なものでお金になるからお坊さんになったという人からやっていけなくなっています。仏祖の行履（あんり）に従っていればよいだけのことです。先祖供養をして故人の冥福を祈りそのご利益でお布施をくださいとは邪教です。これで成仏をしたなど誰にもわかりません。読経をして先祖供養ができるなどと誰も仏祖は言ってはおりません。それは詐欺師のやることです。そうではありません。徳のある僧侶にお布施をして遺族が救われて始めて故人が救われ浮かばれるというものです。先祖供養とは本来は一般在家の人の仕事です。僧侶がすることではありません。我が宗祖たちもしておりません。道元禪師もしていません。親鸞上人に至っては父母のため一遍たりとも念仏を唱えたことはないと言っています。

開祖たちは先祖供養のために読経などしていません。一切衆生のために念仏を唱え読経をしていたのです。お釈迦様しかりです。ですから私たちは今こそ原点回帰をして釈迦　そして開祖たちに戻りましょう。今こそ仏祖教に戻る時です。「先祖教」から「仏祖教」へ。本来あるべきかたちへ。仏祖教を取り戻しその上での先祖教にしていきましょう。仏祖教が先　先祖教はあとです。仏祖教こそ仏教です。先祖教は仏教にあらず。これが私の唱える二十一世紀の令和の仏教です。そこから始める日本仏教再生論です。もう一度原点回帰をして一からお寺を作り直す。そして僧侶を作り直すことです。今コロナ禍でお寺も僧侶もふるいにかけています。断捨離をして自己を捨身にしてやる人が時代を牽引出来ます。その覚悟が問われているのです。やるかやられるか。いよいよ待ったなしの勝負の時です。乞うご期待ください。

そこで当院では川上から川下まで一気通貫して行なうことで事業の効率化をはかります。いわゆる囲い込みをしてその百貨店あるいはショッピングモールの中ですべての買い物を済ませることができるといことかと思えます。消費者は移動の手間や手続きが省けて便利になり提供する側も利益を確保してリーズナブルに設定できます。宗教的葬儀ビジネスの完結態と言えるでしょう。

それによりお布施の心配がなくなっていくます。場合によってはお布施の料金を決めなくても経営に支障をきたすことはなくなり本来のお布施のかたちに戻すことができます。宗教者は運営上の悩みを緩和して本来の宗教の本業に専念することもできます。製造から販売までのビジネスモデルの寺院版ともいえます。これが元々の互助会なのではないかと思えます。

これにより寺院は隣組や親族の代用もできます。宗教として寄り添い人々の安寧のために心から寄り添うことができるのです。

昨年 10月19日に母が亡くなりました。私は母を亡くし今はとても解放された気分です。あまり悲しさはありません。自分なりに親孝行ができたと思っております。むしろこれで本当の人生を歩めるとさえ思っています。特に家業の場合は両親が健在であると後継者はうだつが上がらずしつかりとしません。生前 父はよく親がいつまでも生きてると子どもはしっかりしてくれないとつぶやいていました。私もその意味が漸くわかる年齢になりました。政治家でも親の傘の下にいていつまでも経っても出世をしないボンクラがいます。逆境の人ほどもものになっています。ですから私も出来るだけ早期に引退してここから退去しないとなあと思うことがあります。母の葬儀と法事を我がごととして終えてみて改めて葬儀法事をする必要性がどこにあるのかと思いました。家族葬で何の問題もありません。こんなことに時間や費用や労力を惜しむことはありません。もっとやることは他にいくらでもあります。暇人に付き合うことはありません。このコロナ禍でつまらない人との付き合いがなくなったことは無上の喜びです 今こそ「犀（さい）の角のようにただひとり歩め。（ブツダのことは『スッタニパータ』）である。

今 私は宗派に魅力を感じず（檀）信徒教化に興味がなくなりました。葬式仏教や先祖教にも将来性をまったく期待していません。むしろ故人のことは個人のごことで済ませればよいかと思っております。寺院運営に宗派や檀信徒を関与させても何の利もありません。彼らは自分たちのことしか考えていませんから。

コロナ禍は個の時代をどう生きるかにあります。自分の時間をつくるために余計なことはしないことです。本当に必要なものだけを残してシンプルに生きていくことが禅です。禅寺の庭園のような人生を生き無駄のない仕事をこれからもしていきたいと思っております。

完

令和4年1月6日

見性院住職